

キルギス

1. 一般概況

2004年のGDPは7.1%増と前年とほぼ同水準の伸びを記録した。Kumtor 鉱山による金生産が4割を占める鉱工業生産は15.0%増であり、その金が輸出額750百万USドル(貿易赤字150百万USドル)の4割を占めた。外貨準備高は前年比53%増(550百万USドル)と大幅に積み増した。(出典: BMI “Emerging Europe Monitor-Russia & CIS” /May 2005) キルギスは市場経済化を進めてCIS諸国で最初にWTO加盟を果たした国であるが、貧困を解消するような経済発展には結びついておらず、議会選挙での不正をきっかけとして2005年3月に政変が起き、アカエフ政権は崩壊した。

非鉄金属分野における2004年のポイントとして、Kumtor 鉱山の安定操業と、金探鉱の活発化を挙げることができる。

2. 鉱業政策の主な動き

2004年7月、政府は地下資源利用に関する鉱業税制(ポイントは以下のとおり)を新たに規定した税法典の改正案を議会に上程したが、2005年5月現在、承認されたとの情報はない(政変を受けて審議が停滞していると見られる)。

- ① ロイヤルティ: 以下の税率で、売上げが課税対象となる
 - ・金: 3% (埋蔵量5万oz未満)、5% (同5万oz以上)
 - ・その他の金属鉱物: 一律3%
- ② 特別税 (Bonus): 契約時の一括払いのみ
 - ・鉱区の経済価値(鉱種、埋蔵量と調査ステージによって規定される)に応じて個別に算出
- ③ その他インセンティブ: 探鉱準備金制度
 - ・所得税の課税対象15%を上限として積み立てが可能(用途を地質調査に限定し、5年以内の任意取り崩し)

キルギス政府は、Kara-Balta Ore Processing Combine (KGRK) を民営化する決定(政令115号/2005.2.22)を下し、国家財産委員会は政府保有株72.28%の売却を行うための入札実行委員会を組織することになった。この他、Kadamzhai アンチモン Combine の政府保有株

70.04%をロシア企業に売却し、株式会社化する予定とされる(詳細不明)。

現在、鉱業行政を一元管理する機関に格上げ(政令77号/2004.2.12)されたキルギス地質鉱物資源庁が「2010年までの鉱業開発プログラム」を策定中であり、鉱業投資を促進させるために以下の課題にも取り組んでいる。

- ・地下資源利用ライセンスの取得・剥奪に関する手続きの明確化
- ・環境基準や埋蔵鉱量分類の国際標準化
- ・地質情報のデジタル化と閲覧の自由化
- ・地下資源利用者に対する地質調査データ提出の義務付け

3. 主要鉱産物の生産、消費、輸出入の動向

キルギスの非鉄金属鉱産物は、タングステンの生産が休止中のため、金とアンチモンに特化される。今回、輸出量のデータは入手できなかったが、国内需要がないため、ほとんど輸出されていると考えられる。

単位: t

鉱産物の種類	生産量	
	2003年	2004年
金	22.7	21.9
アンチモン	1,308.7	318.3

出典: キルギス地質鉱物資源庁レポート(2005.04)

なお、輸出相手国としては、金は英国、アンチモンは米国、日本、イタリア、スイス、ロシア、ウズベキスタンとカザフスタンであったが、国別の輸出量は不明である。

4. 鉱山会社(国営企業を含む)の活動状況

(1) Centerra Gold 社(加)

モンゴルや米国ネバダ州に金鉱山・プロジェクトなどを所有する Cameco 社(加)からスピン・オフした企業であり、Kumtor 鉱山の操業会社 Kumtor Gold Company (Cameco 社1/3、Kyrgyzaltyn 公社2/3)から2003年末に資産を引き継いだ。Centerra 社は2004年7月、トロント証券取引所にIPO(253百万USドル)し、資本構成は Cameco Gold 社(Cameco 社の子会社)54%、Kyrgyzaltyn16%、EBRD2%など。同社は2004年、Kumtor 鉱山区域での地質調査に

7.0 百万 US ドルを投資しており、2005 年には金の抽出効率を改善するために Nutch 社（独）の高性能粉碎機を設備化するなど 11.9 百万 US ドルを投じる計画がある。2004 年には金 20.445t（前年比 3.1%減）を生産した。

(2) Kyrgyzaltyn 公社

キルギス政府が 100%所有する国営企業であり、Kumtor 鉱山を Cameco 社と共同経営している他、Makmal、Terek-Say 及び Sultan-sary の小規模鉱山（それぞれ選鉱場を付設）を操業管理している。2004 年には金 1.45t（前年比 8.2%減）を生産した。また、KGRK に設備された金精錬工程は 2001 年から同公社に割譲されており、Kumtor 鉱山の最終製品ドレ合金などキルギス国内の金原料すべての精錬を行って金地金を生産している。

(3) KGRK

2005 年 2 月、キルギス政府の保有株 72.28% を売却して民営化されることが決まった。ウラン鉱石を精錬処理して燃料ウランを生産してきたが、現在は原料不足で生産を中止している。KazAtomProm 社（カザフスタン）や TVEL 社（露）と共にカザフ南部の Zarechnoye J/V ウラン鉱床開発に参画しているが、プロジェクトは進展が遅れており、英国から原料となる黒鉛るつぼ（U 純分で約 5.0%を含む）を輸入（1,700-1,800t/年）して 42-60t/年のウラン生産を再開する動きも伝えられる。併設されている金精錬工程は Kyrgyzaltyn の管理下に置かれている。

(4) Kadamzhai アンチモン Combine

キルギス政府が保有株 70.04%をロシア企業に売却して株式会社化する予定とされる。操業している Kadamzhai 鉱山（選鉱場を付設）のアンチモン精鉱と、Terek-Say（アンチモンを随伴）鉱山から得られたアンチモン精鉱の他、Khaidarkan 水銀 Combine から供給される精鉱も一緒に、湿式・乾式製錬設備でアンチモンを生産している。2004 年の生産量は、原料不足から 318.3t（前年比 75.7%減）と激減した。キルギス政府は、原料不足を解消するために Kassan と Severny Aktash の両アンチモン鉱床

の採掘を検討しているが、砒素品位が高いなどの選鉱処理上の技術的問題を抱えており、開発は進んでいない。

(5) Khaidarkan 水銀 Combine

キルギス政府が保有株 96.7%を所有する国営企業であり、Haidarkan（水銀が優勢）、Noboe（水銀、蛍石を随伴）の両鉱山を操業管理している。随伴するアンチモンを精鉱として回収し、Kadamzhai アンチモン Combine に供給している。

5. 鉱山・製錬所の状況と探鉱動向

(1) 主要鉱山の生産動向

Kumtor 金鉱山 (Issyk-Kul 州)

Centerra Gold 社によれば、2004 年に行ったボーリング調査の結果、新たに金量 24.7 t を獲得し、2010 年まで露天採掘を続けられる見通しを得たとされる。なお、地質鉱物資源庁では、同鉱山の露天採掘対象の残存鉱量（2005 年 1 月現在）を金量 88.24t、Au 品位 3.3g/t としており、この他に坑内採掘対象の埋蔵鉱量（C1+C2）を金量 199.55t、Au 品位 4.43g/t と評価している。山元では選鉱工程を経てドレ合金が製造されており、2004 年の金の実収率は 80.1%であった。なお、2004 年の生産量は 20.445t（前年比 3.1%減）である。

(2) 主要製錬所の生産動向

KGRK 金精錬工程

2001 年に Kyrgyzaltyn 公社に割譲され、同公社の管理下に置かれている。1996 年に拡張され、現在の生産能力 30t/年となった。Kumtor 鉱山のドレ合金や国内の金精鉱すべての精錬を行っており、LME の認定を受けた金地金（99.99%）と銀地金（99.9%）を生産している。キルギス政府は、開発準備中の Taldy-Bulak Levoberezhny 金鉱床の場所が距離 40km と近いことから、鉱石の受入れ処理ができないか試験中とされる。

(3) 主な探鉱開発動向

Jerroy 金鉱床 (Talas 州)

Oxus Mining 社（英）2/3、Kyrgyzaltyn 1/3 で設立された Talas Gold Mining 社が 2005 年末

の生産開始を目指して開発工事中である。金 1.9t/年規模で露天採掘から始めて坑内採掘の準備が整い次第、並行して操業する計画とされている。2004年8月、キルギス政府は開発作業が進んでいないとしてライセンスの剥奪を宣言したが、Oxus Mining社はすぐに57.8百万USドルの追加投資を決定、作業が継続された経緯がある。Jerroy 金鉱床の金埋蔵量は 107.3 t (Au 品位 : 4.9g/t<露天>、9.3g/t<坑内>) とされる。

Taldy-Bulak Levoberezhny 金鉱床 (Chu 州)

Taldy-Bulak Gold 社 (ライセンスを所有する Kyrgyzaltyn49%、Central Asia Gold 社 (豪) 51%) が 2004 年夏にも開発工事 (金生産能力 2.0t/年) を開始する予定であったが、計画に対するキルギス政府の合意が得られず着手できなかった。Central 社は、見直された開発計画が策定でき次第、工事を開始するとしている。同鉱床は、金量 75t、Au 品位 7.9g/t と評価されている。

探鉱投資 (地質調査)

地質鉱物資源庁によると、2004 年の地質調査活動への投資額は前年比 3.4 倍となる 760 百

万ソム (約 18.4 百万 US ドル) で、外資がほとんどを占めた。中国やカナダ企業による活動が最も活発であったが、2005 年にも Oriel Resources 社 (英) などジュニア企業に金鉱区のライセンス取得の動きが目立っている。

6. 我が国との関係

(1) 我が国企業による投資・協力事業

現在、日本企業はキルギスの非鉄金属分野で投資を行っていない。かつて、JICA-MMAJ 事業の資源開発協力調査 (1997-1999 年度) で発見された金鉱床の成果を引き継ぎ、日本企業の参画を得て鉱山開発に移行したいとするキルギス政府からの要望があったが、実現には至らなかった。

(2) 輸出入関係

我が国は、2003 年にキルギスから金地金 1,506t (1,962 百万円) を輸入したが、2004 年の実績はない。

(2005.6.9/アルマティ事務所 酒田 剛)